

## ■ 特別パネルセッション

## セッション3 一貫指導システム構築に向けた JISS の役割

○和久 貴洋<sup>1</sup>、青木 剛<sup>2</sup>、平野 一成<sup>3</sup>( <sup>1</sup>国立スポーツ科学センタースポーツ情報研究部、<sup>2</sup>財団法人日本水泳連盟、<sup>3</sup>公益財団法人日本オリンピック委員会)

‘Own The Podium’ (カナダ) では、バンクーバー冬季オリンピック競技大会での成功シナリオとして、  
 $\text{メダル獲得数} = \text{メダルポテンシャルアスリート数} \times \text{オリンピックでのメダル獲得成功率}$   
 という方程式を定め、様々な取組み・革新に取り組み、成功を収めた。カナダが、今後も安定的にメダルポテンシャルアスリートを育成・輩出し、彼らのメダル獲得成功率を維持・向上することができれば、カナダはトップスポーツの国際競争において競争優位性を得られるであろう。

我が国におけるトップアスリート育成に関しては、2000年のスポーツ振興基本計画策定以来、一貫指導システムの構築が重要施策のひとつと位置付けられ、競技団体を中心にその取組みを展開してきた。ここでいう一貫指導システムとは、国際競技力向上における競技者育成システムである。言い換えれば、エリートスポーツにおける世界との競争において、メダル獲得潜在力のあるアスリートを長期的・計画的、戦略的に育成する体制である。

本セッションでは、日本水泳連盟副会長・青木 剛氏及びJOC エリートアカデミーディレクター・平野一成氏を招き、一貫指導システム構築におけるアスリート育成の現状と課題をお聞きし、これからのJISSの役割を探求する。この探求を進めるにあたり、まずその前提条件となる事項や国内外の情勢をおさえておく。

## ◆ エリートスポーツにおける競争構造

近年のエリートスポーツにおける競争はより高いパフォーマンス水準での僅差の競い合いとなっており、そこでの勝敗は高度なスピード・疲労・プレッシャー下で発揮されるパフォーマンス水準によって決定づけられている。この構造は、トップアスリートのトレーニングの高度化（高強度化・高ボリューム化・長期化）やフルタイム化、コーチングや強化活動のプロフェッショナル化を引き起こし、結果的に、競争構造の厳しさが増している。

## ◆ 国際競技力向上の構成要素

国際競技力向上は、パフォーマンス要因、サポート要因、組織力、及びシステム要因の4つの要素からなる。パフォーマンス要因は強化・育成の基盤であり、日常のトレーニング、コーチング、強化合宿、競技会参加機会等のパッケージである。サポート要因は、強化育成を効果的・効率的に推進するための医・科学・情報支援であり、医・科学サービス／研究、村外サポート拠点等がある。組織力は、強化・育成を推進するための革新や持続性を高めるための組織能力と組織体制であり、戦略構築力、人材供給力、人材育成力、医・科学やテクノロジーの活用力等が含まれる。システムとは強化育成を支える社会システムであり、雇用や就学、身分保障、学業等の様々な制度がある。

## ◆ パフォーマンスパスウェイ

明確なパフォーマンスパスウェイ構築は近年、諸外国で重視されている考え方である。アスリートの育成過程におけるパフォーマンス水準とメダルポテンシャルアスリートに至るまでの期間から、英国では有望アスリートを「タレント」「ディベロップメント」「ポディウム」に分類している。メダルポテンシャルアスリート育成におけるパフォーマンス上の道標（道筋）といえる。

#### ◆ポテンシャルアスリート育成に関する国際情勢トピックス

メダルポテンシャルアスリートの育成に関する世界の重要な動きとしては、タレント発掘・育成やデュアルキャリアのアプローチがある。識別型のタレント発掘・育成プログラムは多くの国々で展開され、高い資質を有するポテンシャルアスリートプールの拡大が図られている。また、その一方で、こうしたメダルポテンシャルアスリートは、ライフステージにおける高等教育機関に属する期間に高度のトレーニングを積む必要があることから、学業とトレーニングとのバランスを保つための体制整備（デュアルキャリア）が注目され、ヨーロッパで積極的に展開されている。

#### ◆国際競争における競争優位性を保持するためのトレンド

現在、世界の国際競技力向上のフレームワークは類似化し、その取組みに大きな違いはないが、JISS スポーツ情報研究部の情報によれば、それらの取組みの実行面においては次のような特徴が見られる。世界との競争において、イノベーションを素早く確実に実行することが自国の競争優位性を保持する上で重要なファクターとなっている。

- *Be different* (違いを生み出す)
- *Be unique* (独創的であること)
- *Do thing first* (どこよりも早く実行すること)
- *Be more creative and innovative* (より創造的かつ革新的であること)
- *Take risks* (リスクを恐れないこと)
- *Create culture focused on winning* (勝つことにこだわる風土)
- *Total commitment* (全力で取り組む)

#### ◆スポーツ立国（スポーツ基本法）

2011年6月、スポーツを国家戦略に位置付けたスポーツ基本法が成立した。スポーツ基本法では、第25条に優秀なスポーツ選手の育成が新たに定められ、優れた資質を有する青少年の指導その他の活動への支援が規定されている。

#### ◆トップアスリート育成のステークホルダー

我が国のスポーツ構造上、メダルポテンシャルアスリートの育成には、様々な組織や関係者が関わる。メダルポテンシャルアスリートは中央競技団体のみが関わるのではなく、少年団、クラブ、学校、中体連、高体連、大学、企業、JOC等、様々な機関が関わる。JISSもその一つである。

#### ◆地域タレント発掘・育成事業

JISS 情報事業において、持続的な国際競技力向上の方策として取り組んできた事業である。2003年、当時のスポーツ振興基本計画に基づく地域との連携の一環としてプロジェクト化し、2004年に福岡県タレント発掘事業を立ち上げた。これを契機として、地域タレント発掘・育成事業が広がった。現在、11の地方公共団体とJISSが連携して、12事業を展開している。これらは、世界で行われているタレント発掘・育成プログラムと同様、国際競技力向上を出発点とする「識別型タレント発掘事業」であり、現在772名のタレントプールがある。